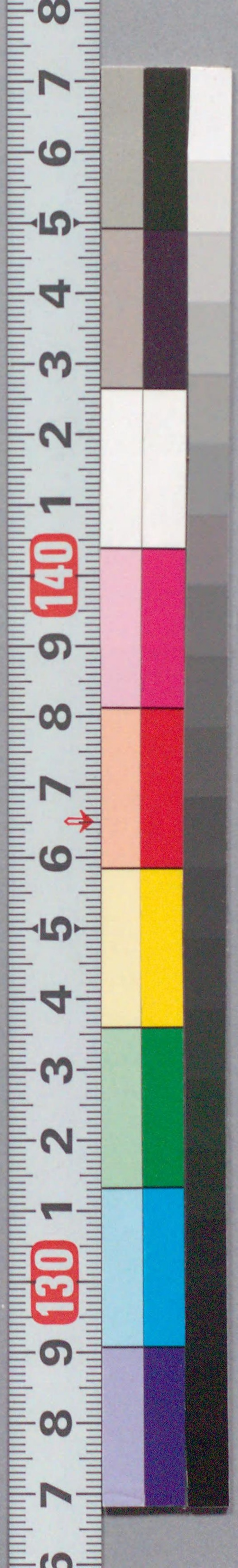


207
262

国立国会図書館 京鹿の子娘鮎汁 : 2巻 207-262



ガラス使用

子娘鯨汁

207
262

寛政三年

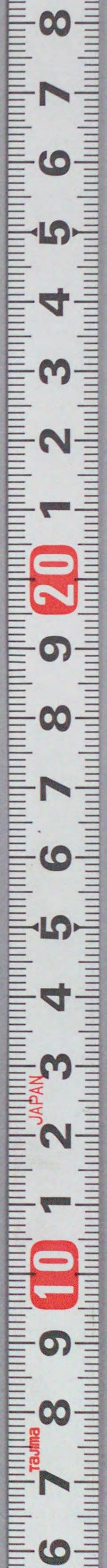


序

序

三世相應の古更附よ曰男御山伏の木性
女鐘の念性子八千人有て常よ口説更多し
大に凶あり是全金尅黙而鑑よ女れ前生踊
子よて今生小歎とあり男の前生鱈よ今世山の
芋の代は山伏とあり女ハ豆千粒男ハ松茸千本
持て恨性の悪ひ奴よ生る其騒動老の如しと云

題 芝全六入



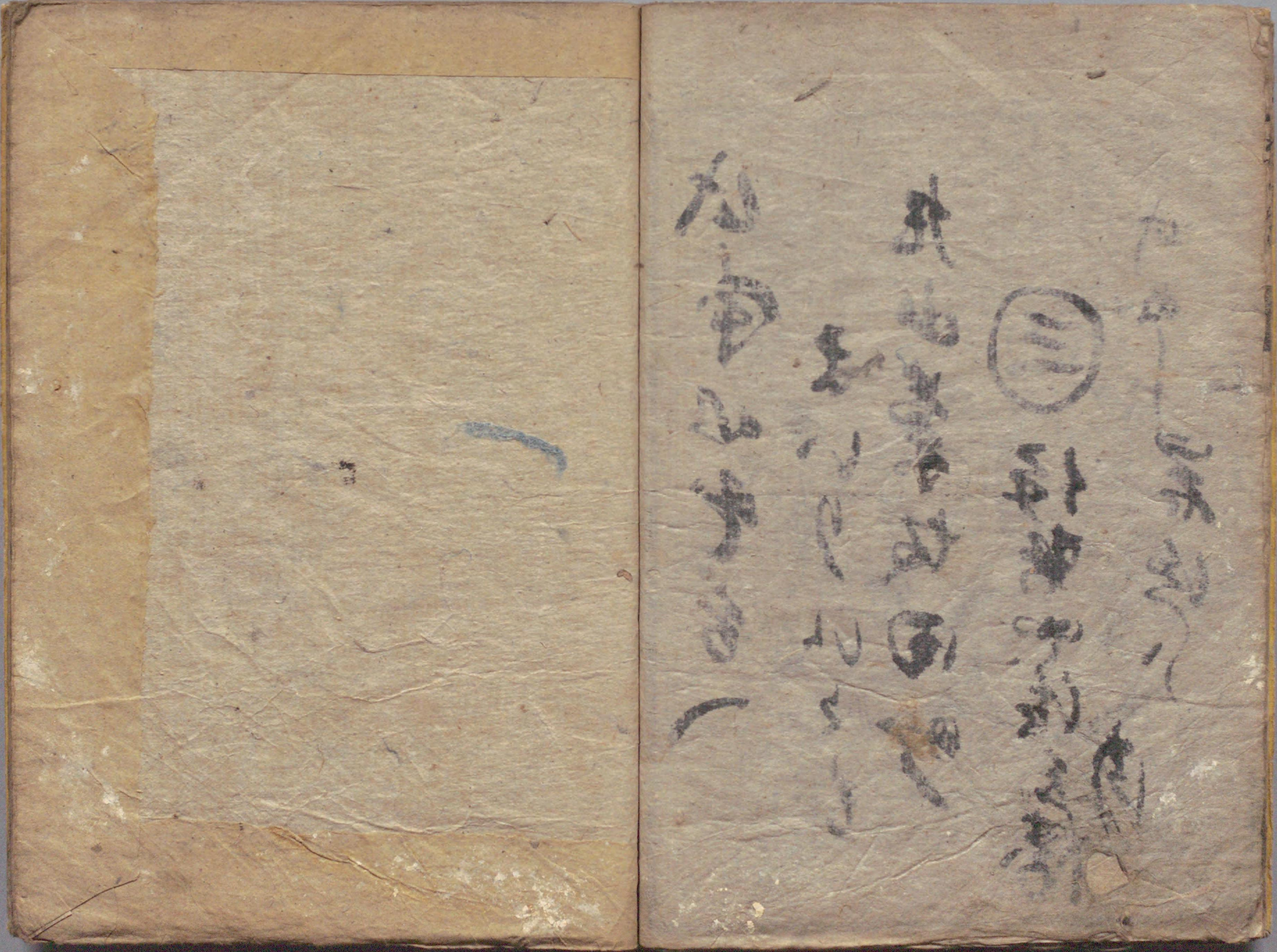


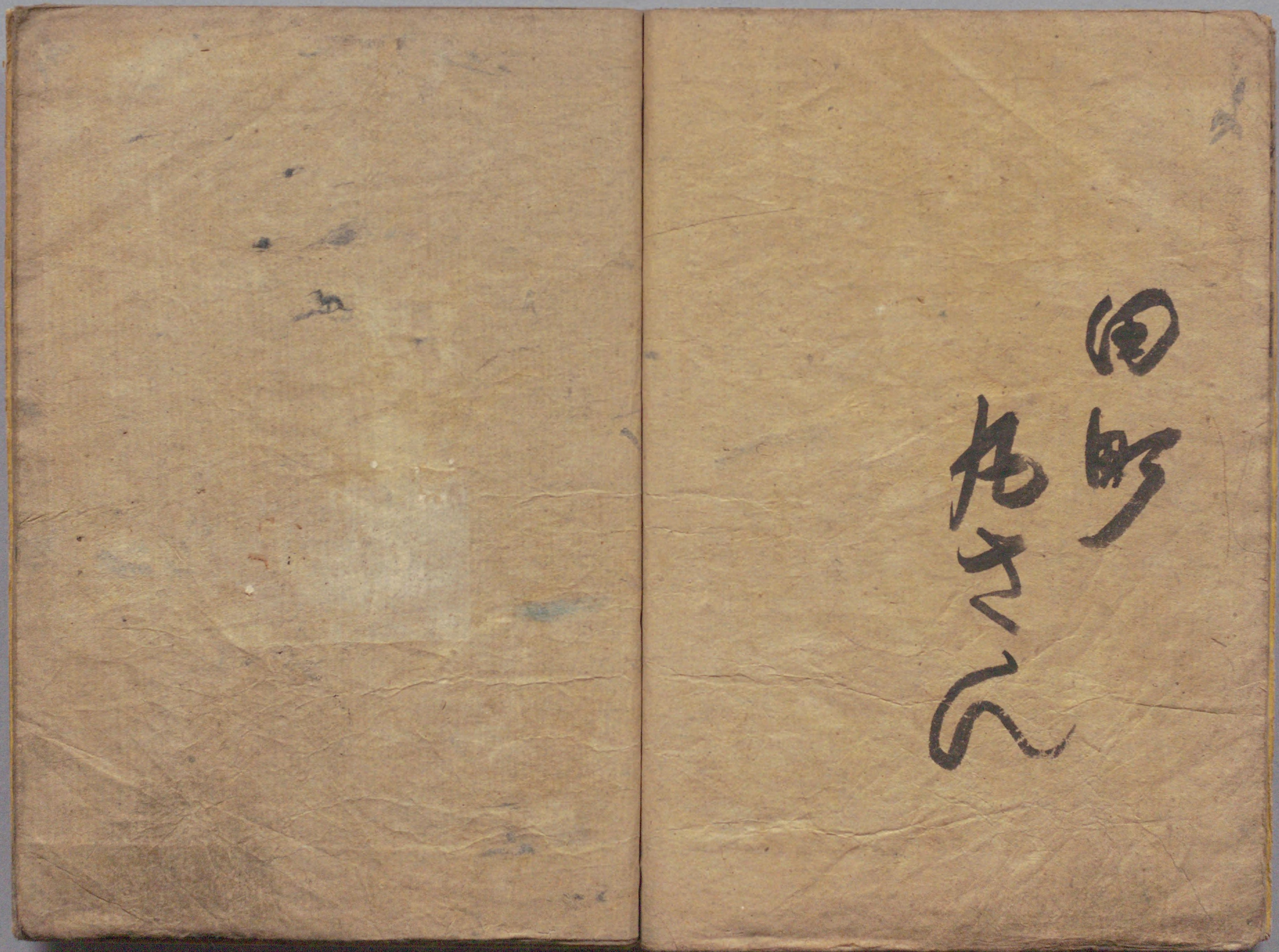
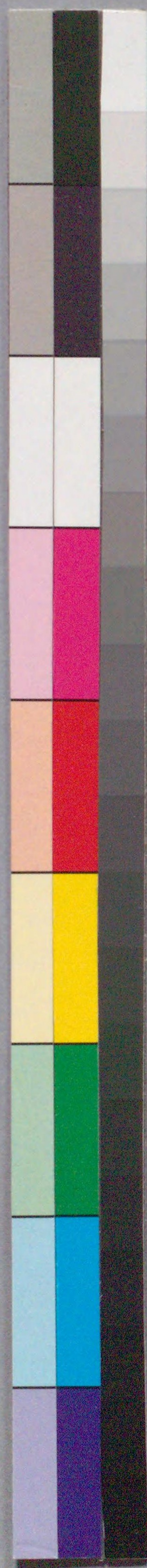




けぬき
 三 仔野や活き勝
 丸山薬坂回野
 まいりいとも
 けぬき
 けぬき







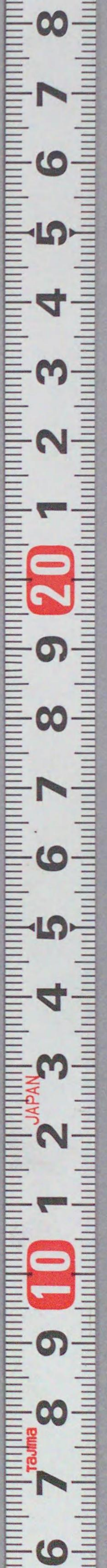
鹿の子娘汁
目録

国立国会図書館 京鹿の子娘鯨汁：2巻 207-262

ガラス使用

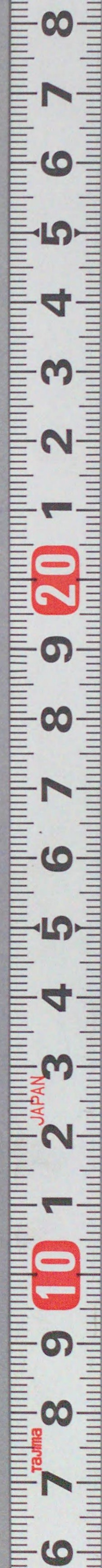
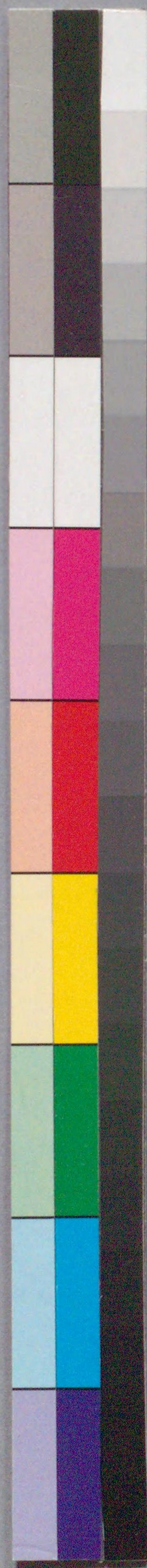






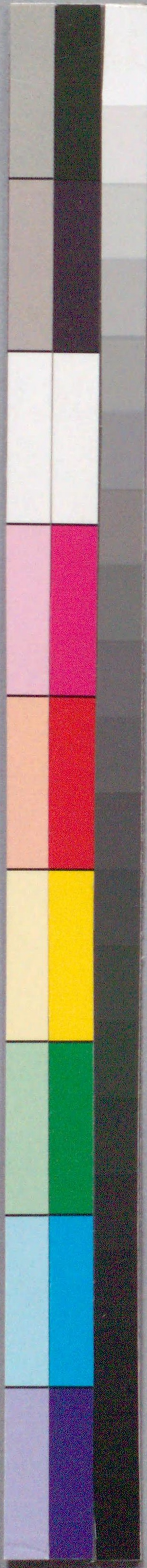




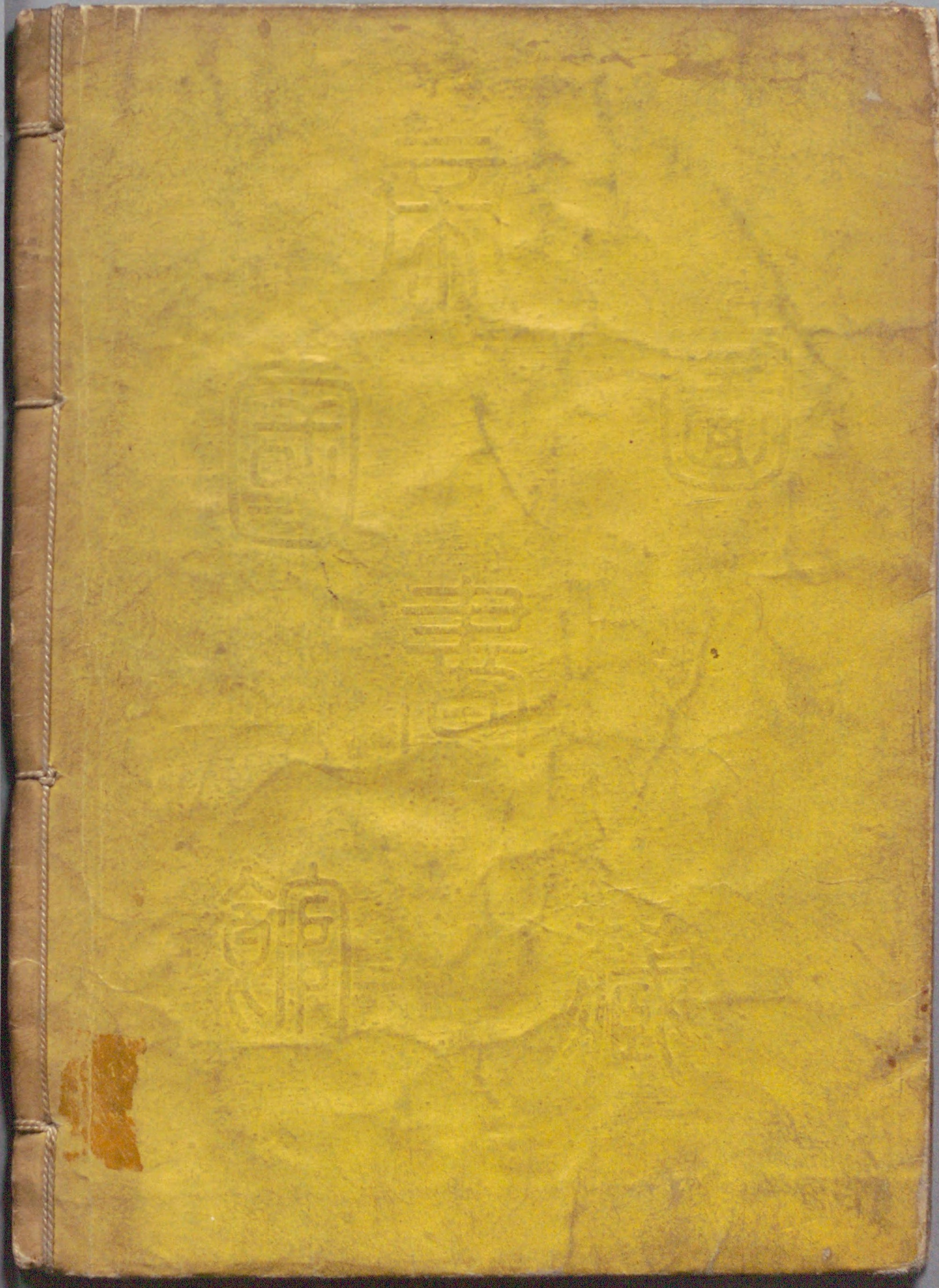


国立国会図書館 京鹿の子娘鮫汁：2巻 207-262

ガラス使用



国立国会図書館 京鹿の子娘鮫汁：2巻 207-262



ガラス使用

